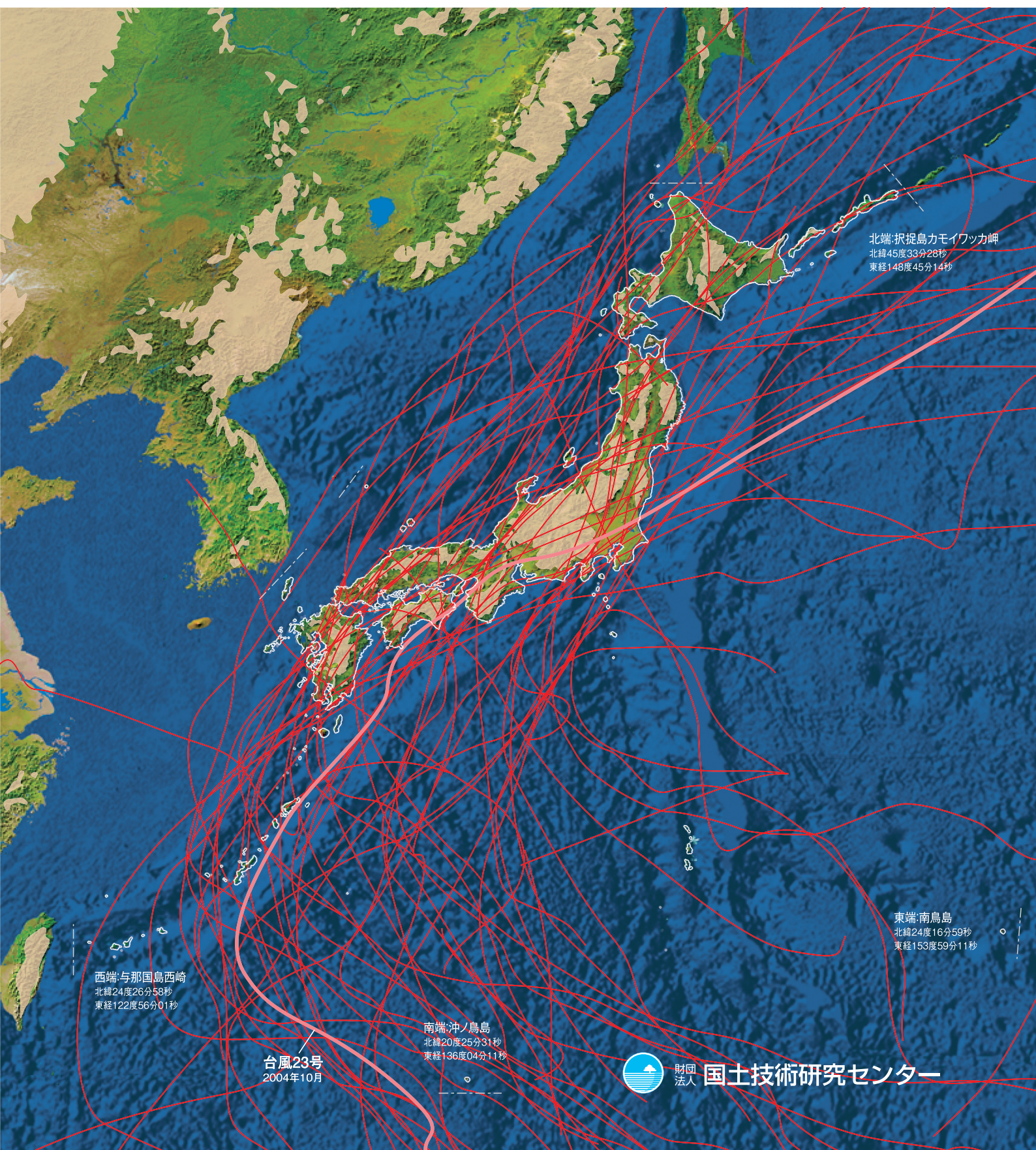


JICE REPORT

2008/第14号

REPORT OF JAPAN INSTITUTE OF CONSTRUCTION ENGINEERING



財団法人 国土技術研究センター

今号は、「台風の経路」です。日本には、平年10.8個の台風が接近しており、平年2.6個が日本本土に上陸しています。表紙には、1989年から2008年にかけての20年間に日本付近に台風が接近、または上陸し、大きな被害をもたらした58個の台風の経路を示しています。

近年、特に大きな被害をもたらした台風は、2004年10月に発生した台風第23号であり、台風と前線による期間降水量（10月18日～21日）は、四国地方や九州東部で500mmを超えたほか、近畿北部や東海、甲信地方で300mmを超え、広い範囲で大雨になりました。これにより、高波による堤防の決壊や土砂災害等が発生し、死者95名、行方不明者3名、負傷者721名、住家全壊907棟、半壊7,929棟、一部損壊12,514棟、床上浸水13,341棟、床下浸水41,006棟などの大災害をもたらしました。

また、陸地のうち黄色に塗られているのは標高500m以上の山地です。日本列島は背骨のような山脈が連なっており、太平洋側と日本海側に分かれているのがわかります。

私達は、このような厳しい自然条件の中で暮らしています。

出典：気象庁ホームページ：災害をもたらした気象事例(1989年～2008年)

：台風の平年値

(注) 台風の平年値(接近数、上陸数)は、1971年～2000年の30年平均です。



財団法人 国土技術研究センター



MSA-QS-66

JIS Q 9001-2000 (ISO 9001:2000)
認証取得1998/6/17 更新2007/6/20



JAB
QS Accreditation
R023

